

奈良県告示第五百五十八号

家畜伝染病予防法（昭和二十六年法律第百六十六号）第六条第一項の規定により、次のとおり注射を受けることを命ずる。

平成三十年三月三十日

奈良県知事 荒井正吾

一 実施の目的、実施の対象となる家畜の種類及び範囲並びに注射の方法

病名	実施の目的	実施の対象となる家畜の種類及び範囲	注射の方法
炭疽 <sup>そ</sup>	発生予防	発生予防上適当と認め た牛	炭疽 <sup>そ</sup> ワクチンを皮下注射する。
アカバネ病	発生予防	発生予防上適当と認め た牛	牛異常産三種混合ワクチンを筋肉内注射する。
牛伝染性鼻 気管炎	発生予防	発生予防上適当と認め た牛	牛伝染性鼻気管炎ワクチン、牛呼吸器病五種混合ワクチン又は牛呼吸器病六種混合ワクチンを筋肉内注射する。
流行性脳炎	発生予防	発生予防上適当と認め た豚	豚の日本脳炎ワクチン又は日本脳炎・豚パルボ混合ワクチンを皮下注射する。
豚丹毒	発生予防	発生予防上適当と認め た豚	豚丹毒ワクチンを皮下又は筋肉内注射する。

二 実施する区域及び実施の期日

--

病名	実施する区域	実施の期日
炭疽 <sup>そ</sup>	県の全域	平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日まで
アカバネ病	県の全域	平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日まで
牛伝染性鼻気管炎	県の全域	平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日まで
流行性脳炎	県の全域	平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日まで
豚丹毒	県の全域	平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日まで

三 その他

詳細については、家畜保健衛生所長の指示による。